

平成22年度 かんだ連雀 事業計画概要

前年の概況
<p>さまざまな課題は山積するも、大過なく1年をおくれた</p> <p>1 特別養護老人ホーム 稼働率 91%(22年1月現在) 2月現在 入所13名 退所12名(うち連雀での看取り7名) ご利用者個々のアセスメントに基づいたケアに努めた マッサージ師との連携による機能訓練を実施した 医療・介護の施設内連携と外部医療機関との連携を図った</p> <p>2 ショートステイ 稼働率 111%(22年1月現在) 「その方の在宅生活を支える」ために担当者会議に参加する など宅を意識した提供に心がけた 極力ご家族の状況や思いに応える配慮を心掛けた 緊急ケースの受け入れも対応し、受け入れ環境の整備をした</p> <p>3 デイサービス 稼働率 70%(22年1月現在) 在宅のサービスであることを念頭におきサービスを提供した。 医療ニーズ(尿道カテーテル・褥創の処置)のある方の受け入れを行った。</p> <p>4 あんしんセンター 医療介護連携事業を受託し、前年度5名から6名体制となった 年度途中より窓口当番を設置し、確実な相談対応を実施した</p> <p>5 居宅介護支援 保有65件 2人体制となり、積極的に新規受け入れを行った。ケースの 重度化・高齢化に対応した 会議の定例化・部署朝礼・ケースファイルの整理をし情報の 共有に努めた</p>

本年重点ポイント
<p>ご利用者おひとりおひとりの生活を踏まえた支援を推進する</p> <p>1 岩本の事業も含め、各事業連携し、相談からサービスの提供まで一連の支援を実施する ・各事業間の連携の拡充 / 情報の共有化 ベースとなる事業推進会議と事業検討会議</p> <p>2 業務管理体制を整備し、法令を遵守する</p> <p>3 職員が着実に育成・定着できるような仕組み・研修を本部連動の下 構築する</p> <p>4 地域との連携を深め、地域の中の連雀を発信するとともに、地域の持つ力を活用させていただく ・好評スタバボラに続く企画構築 ・町会と共催の納涼祭(8月)</p> <p>5 事業をさまざまな角度から検証する サービス自主評価(12月) 第三者評価受審(10月) 事業情報公表制度 家族懇談会(年2回)およびご利用者の声 かんだ連雀運営協議会(年3回)</p> <p>6 防災・防犯対策を強化する ・各人の「いざという時の動き」を体に沁み込ませる</p> <p>7 単年度経常収支の黒字化を目指す</p>

課題
<p>1 法令を遵守する 業務管理体制整備を推進する 各種規程等の見直しをする</p> <p>2 家族支援システムの本格稼働化させる 運用の定着化を図る</p> <p>3 岩本と連携した対応サービスを拡充する 岩本町での訪問食事サービス開始を契機とした 戦略的事業を検討する - 訪問介護事業等</p> <p>4 サービス自主評価等から業務を見直す 継続して強化の必要な「防災対策」を徹底する 各部署業務課題を抽出し共有化を図る</p> <p>5 人材の確保と育成を強化する ヒトの確保・バランス良い配置を目指す 正職員×契約職員(常勤・非常勤)×派遣職員 OJT×チャレンジプランの活用と研修に参加する 対象研修に参加できる勤務体制を確保する</p> <p>6 安心、安全かつ和める館を構築する リスクマネジメントの徹底を図る ボランティアを活用する</p> <p>6 収支バランスの改善をする 単年度経常収支の黒字化を目指す 中長期計画を立案する</p>

全体を通した考え方
<p>法人の理念の下、神田事業所(連雀+岩本)一体となり 神田地区の高齢者が安心して安全に暮らせるよう支援していく 具体的には、高齢者あんしんセンターを窓口初期相談から在宅サービスの提供、施設入所に至るまで継続的な支援をするよう連携していく。 さらに今年度は岩本町の訪問食事サービスの事業開始を踏まえ、神田地区の在宅サービスを広角度な視野で検証していく。 一方、法人の施設、法人の職員として 法人の基本指針</p> <p>1 利用者に深い共感をもつ 2 地域の方々に感謝する 3 水、電気などの資源を大切に 4 常に防災を心がけ火を出さない</p> <p>に基づき事業推進すべく 月次計画等にも 具体的な計画をしていく また、職員個々のチャレンジプランにおいても 計画化し、実践し、「ヒトにやさしく」「ヒトを大事にする」 心を養い、人間的にも成長できる職員集団を目指す</p> <p>なお、事業推進の上でベースとなる職員体制の確保 および定着に向け、魅力ある職場づくりをしていく</p>

		対利用者	職員・業務
運営・管理	事務局担当	1 施設の窓口として、丁寧で親切な対応に努める 2 法人事務局主導のもと家族支援システムの運用に軌道にのせる 3 業務管理体制を整備し、法令遵守に努める 4 介護報酬改定の中、法人事務局連動のもと間違えのない利用者請求を行う 5 防災訓練を毎月実施し、安心安全な館を保つ	1 法人事務局主導の下、適格な事務処理を実施する(経理・介護報酬請求・勤怠管理・システム等) 2 法人事務局発各種研修を活用するとともに、施設内研修の充実を図る 3 職員のメンタル面をフォローできる仕組みを考える 4 固定資産、備品の管理をする
	サービス向上	1 法人の基本要件を踏まえ、全職員一社会人としてのマナーと節度を持ち勤務する 2 サービス自主評価の結果を踏まえ、各テーマ毎サービスの向上に努める 3 チャレンジプランに基づき、職員ひとりひとりの能力の向上を目指し、各人職能要件をクリアできるよう努力するーまた施設として個々取り組めるよう共通認識を持つ 4 連雀・岩本に限らず、その方にあった地域の社会資源をご利用者にご案内する 5 SVと連携し、神田事業推進会議を軸に、各事業のサービス向上に努める	1 法人主導の研修を有効に活用する 2 岩本と連携し、施設固有の研修を実施する 3 サービス自主評価の実施とその後の意見交換会を通じ、次年度の課題に繋げる 4 運営協議会(年3回)等からの助言・意見をきく 5 美化・エコプロジェクトを復活させ施設全体で活動する
支援センター	あんしん	1 特定事業参加のメリットを周知することで参加意欲を向上させる。 2 介護サービス未利用者の継続的な見守りのため、電話訪問等工夫をする。 3 虐待防止ワーキングのメンバーとして、区全体での取り組みに参加する。 4 区主導のもと、医療介護連携事業のモデル事業を実施する。 5 介護予防支援の委託事業所を開拓する 6 シルバートレーニングスタジオにおける保健・予防活動を実施する(独自事業)	1 当日分の当日記録を引き続き目指す 2 窓口当番を徹底し、相談体制を強化する 3 個々の事例の情報共有、意見交換を実施する
	居支	1 制度(変更)や居宅サービス計画を丁寧に説明する 2 サービス業としてのホスピタリティを心がけた対応をしていく 3 法人の組織力(岩本の含めた神田事業所)を生かし、困難・緊急ケースにも対応する	1 各種研修へ積極的に参加する 2 各種サービス提供事業所及び医療機関との連携を強化するため、顔の見える連携を 心がける 3 千代田区に事業所をおく居宅の責務として、ちよだケアマネ連絡会運営委員としての役割を果たす
センター	デイ	1 しっかりとした記録・モニタリングを実施し、ご利用者個々のニーズ等を把握、通所介護計画書を作成し、計画に沿ったサービスを提供していく 2 活動内容の充実。満足度アップを図る	1 通所介護計画書作成・更新手続きを職員全員が理解する 2 ご利用者のニーズを把握するためアンケート調査や懇談会を実施する 3 1日の流れの見直しする 4 ボランティアの積極的な受け入れを行う
	ホーム	<特別養護老人ホーム> 1 その都度、ご利用者の状況を把握し、各部署情報共有の下でのケアを提供する 2 食事・入浴・排泄・移動について各プロジェクトで検討し、それぞれの場面でご利用者個々の状況に沿ったケアを提供する 3 入所・退所および入院・退院等に際し、各関係機関との連絡・情報交換を密に行いトラブルのないよう対応すると共に速やかな流れとなるようにする <ショートステイ> 1 ご利用者、ご家族の要望を柔軟に受け入れる態勢をつくる 2 ご自宅での生活環境を考慮した短期入所生活介護計画を立案する 3 担当ケアマネ-ジャー(事業所)やご家族と情報を共有し、その方にあった援助を提供する	<特別養護老人ホーム)> 1 ケアプランに基づく、各職員プラン共有のもとで援助に取り組む 2 計画的にモニタリングを実施する 3 各種会議、委員会の更なる充実を図る。(フロア会議、食事・入浴・排泄・移動・アクティビティ研究会) 4 ボランティアを積極的に受け入れ、新規レクリエーションメニューを構築しアクティビティの充実を図る <ショートステイ> 1 短期入所介護計画書の見直しをする 2 滞在中ゆっくり過ごしていただくよう環境整備を検討する 3 関係機関と連携を強め、在宅での生活を含め総合的な援助に繋がるようにする
連携	看護	1 日常生活から看取りケアまで、ご利用者の体調の変化に適切に対応する 日々の観察により体調の変化に早期に気づき速やかに対応する 嘱託医・相談員と連携し家族対応・医療機関への依頼等に適切に対応する 「看取りケアマニュアル」を整備し、その方らしい終末の援助に繋げる 2 感染症の情報収集・予防対策の更なる徹底により発症を未然に防ぐ 3 センターご利用者の状況を把握し、継続したケアが行われるように関わる	1 職員の健康管理 健康診断の確実な実施と健診後のフォローアップを行う 検便提出の徹底と予防接種を確実に 常備薬の点検整備を通じ健康管理を行う 2 感染症予防研修を実施し、日々の啓蒙活動を行う 3 知識・技術の向上のため研究会・委員会活動に積極的に関わる 4 情報共有のための家族支援システムを有効に活用する
	食事	楽しめる、食べやすい食事の提供をする 1. ムース食の充実を図る ムース食提供の定着化させる レシピの充実:食材に合ったレシピの研究する 2. 利用者・他部署との連携を深め、情報を共有する	1. 岩本町ほほえみプラザと連携強化を図る 全員2施設対応出来る体制にする 法人施設内の計画的な交換研修を実施する 真空調理への移行を検討する